

新変則 2 交代制勤務の導入と評価

3-4 病棟 大井 匡未

新看護提供方式導入の活動報告

3-4 病棟 本木恵美子 大井 匡未 松本みさと
杉山 奈々 杉山 倫代 南條 久乃

I. はじめに

新病棟建築に伴い、3-4病棟は48床から38床となった。診療科は脳神経外科・神経内科・救急科の3科となり、脳神経外科の手術患者の受け入れも開始し、脳神経の専門性は今まで以上に必要となった。また、昨年度の看護師の病棟異動に伴い、病棟経験の浅い看護師が増え、OJTをふまえた教育体制について課題があった。その為、福井大学病院のパートナーシップ・ナーシング・システム（以下PNSと記す）を参考に、3-4病棟に合った方法を検討・構築しH24、10月より運用を開始した。活動経過につき報告する。

II. 活動内容

病棟スタッフに現行の「固定チーム継続受け持ち制」においてアンケートを実施し、明確になった問題点を解決するため看護提供方式の検討をした。その結果、福井大学病院のPNSは、看護の可視化や教育、安全面に効果がある看護提供方式であると考えた。福井大学病院のPNSは年間を通してパートナーを決め、毎日経験年数の異なる看護師がパートナーとなり、看護にあたるシステムである。お互いの看護に触れる機会が多くなり、日々のケアの中で後輩や異動者の指導・教育を行えると共に、先輩看護師も後輩から良い刺激を得る機会ともなり、看護の質の向上や新人・異動者の指導や教育の充実という点で効果的であると考えた。3-4病棟PNSの定義は「看護師が安全で質の高い看護を共に提供出来ることを目的に、病棟全体を一つのグループとした中で、よきパートナーとして対等な立場でお互いに働きかけ影響し合い、相互に補完・協力し、その責任と成果を共有する」とし①ケアパートナー制、②プライマリーパートナー制、③コーディネーター制で構成さ

れる。

III. 調査結果から考えた今後の課題

PNS導入から3ヶ月後にスタッフへアンケートを配布し、27名中23名の回答を得た。「ケアパートナー制開始以前と比べ、他の看護師の看護観や考え方・技術・知識を知る場が増えたか」という質問に、半数以上が「はい」と回答。また「パートナーと共に病態・看護・治療を関連づけたり、患者の状態を捉えて看護実践に繋げているか」との質問に、6~7割が「はい」と答えている。ただし、中堅看護師においては、PNSを導入し始めたばかりの余裕がない中、経験年数の浅い看護師とペアになることが多く、負担が大きいとの意見があった。「各ケアの負担の軽減はしたか」の質問に記録・退院支援以外の項目で軽減したとの回答が多く、体位変換・保清・排泄ケアでは、半数が「はい」と答え、時間短縮が図れたという意見であった。入院の取扱い・術後観察やケア・重症患者の観察やケアは、全体の6~7割が「はい」と答え、ケア度の高い患者を単独で持つ不安をパートナーと共有できるという理由が多く、二人で担当することで精神的負担が軽減したり、集中できる環境を作れていると考えられる。②については「プライマリーパートナーと共に情報共有・看護展開・看護の視点を深めることが出来るか」との質問に、大半が「いいえ」と答えている。パートナーと一緒に勤務にならない、話す機会がない、まだ意識が薄く定着していないと答えている。今後、どのように改善していくかが課題である。③については「各ケアパートナーと情報共有が出来ているか」の質問に、ケアパートナーへの働きかけはしているが情報が集まらず、まだ十分でないという意見が多かった。「パートナーの状況に合わ

せて支援は出来ているか」の質問には、半数が「はい」と回答している。今後は、この視点で情報がコーディネーターに集まるようなシステム作りや看護の方向性を確認し合う時間を作る等の工夫をしていく事が、課題と言える。

V. おわりに

今回、新看護提供方式を導入するにあたり、新病棟への移転という慣れない環境の中、最初は混乱も

みられたが、現在ではパートナーと協働する事に慣れてきている様な印象を受けている。アンケート結果からもわかるように、PNS導入により看護師がお互いに刺激を受け、患者の状態を捉えた看護に繋がられていると感じており、少しずつ効果が現れてきているものとする。今回、明確になった問題点や課題を改善し、スタッフ全体が満足できる看護体制の構築を検討していきたいと考える。